

<p>1. 上野 公悦 (日本共産党議員団)</p>	<p>1. 議案第 111 号平成 29 年度上越市一般会計補正予算（第 3 号）について</p> <p>(1) 10 款 5 項 4 目博物館費中、博物館管理運営費について以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 国宝太刀の購入に係る経費などが減額されたが、どういう事情でこういうことになったのか経過を含めて明らかにしてほしい。また、その主要な原因と責任をどのように考えているか。</p> <p>イ すでに集めた太刀購入のための寄附金についてはどう対応するのか。</p> <p>ウ 「上杉謙信公のふるさと・上越市」魅力向上事業はどうなるのか。</p>
--------------------------------	---

<p>2. 杉田 勝典 (公明党)</p>	<p>1. 3 期目の市政運営に当たる所信表明について</p> <p>(1) 「このたびの選挙を通して頂いた貴重なご意見を始め、市政に対する声を真摯に受け止めながら、丁寧に、そして誠実に、今後の市政運営に努めるとともに、しっかりとその説明責任を果たしていきたい」としているが、3 期目の政治姿勢について聞きたい。</p> <p>(2) 将来にわたる持続可能なまちづくりに向けて、「当市の魅力と優れた地域資源が持つ潜在力を最大限に発揮させ、交流人口の拡大とにぎわいづくりに向けた取組も重ね合わせながら、まちの総合力を着実に高めていくことが極めて重要」としているが、3 期目のまちづくりに対する市長の思いを聞きたい。</p> <p>2. 議案第 111 号平成 29 年度上越市一般会計補正予算(第 3 号)について</p> <p>(1) 国宝「太刀無銘一文字(号 山鳥毛)」の取得に係る経費の減額補正について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 国宝「太刀無銘一文字(号 山鳥毛)」の購入を断念した経緯などを説明するための記者会見を開催したが、市民に直接説明する機会を設ける必要性については、どのように考えているか。</p> <p>イ 国宝の取得に向けて盛り上がった市民及び刀剣ファンの落胆感や総合博物館のリニューアル整備なども含め、購入断念がもたらす影響をどのように捉えているか。</p>
---------------------------	--

<p>3. 滝沢 一成 (新政)</p>	<p>1. 議案第 111 号 平成 29 年度上越市一般会計補正予算(第 3 号)について</p> <p>(1) 国宝「太刀無銘一文字(号 山鳥毛)」の購入契約を締結できないことから事業費を減額するが、最高責任者である市長として、寄附金や募金などに尽力して来た市民、また期待していた市民に対し、どのように説明する考えか。</p> <p>(2) 交渉に当たった教育委員会の責任者である教育長として、市民にどう納得してもらおうつもりか。</p> <p>(3) 契約金額に関し所有者は、平成 28 年 3 月 11 日の二度目の面会では「最初は 3 億円、状況を見て変更」、同年 6 月 15 日のメールでは「最低 3 億円以上、市の予算プラス寄付金により、3 億円プラス α は状況を見て判断し、出来るだけ 10 億円に近づきたい」と意思表示した。それ以降、所有者は市に対し直接金額そのものについては言及せず、翌年 3 月 8 日に契約金額の変更を希望するメールを送ってきたという。その間市は、議会議決の手続の必要性の説明、仮契約書の草案の送付、市としての手続やスケジュールの説明を所有者に行ったが、肝心の契約金額の決定、つまり市としては上限であると議会や市民に伝えていた 3 億 2 千万円での明確な合意を、なぜ得ようとしなかったのか。</p> <p>(4) 平成 28 年 12 月 6 日に所有者から送られてきたメールに対し、仮契約書の草案を送り、市の購入金額を示したことで金額の了解を得たものと考えたとあるが、その根拠はなにか。</p> <p>(5) 本年 3 月 8 日に、所有者から契約金額変更を希望するメールが入ったとするが、その翌 9 日そして 10 日に文教経済常任委員会が開催されており、まさにその契約金額 3 億 2 千万円で国宝太刀を取得する事業の予算を審議していた。購入の根幹に関わる金額の変更希望が所有者から入ったことを議会に黙っていたのはなぜか。</p> <p>(6) 同様に 3 月 8 日にメールが入ったにもかかわらず、市長に報告があったのは翌々日 10 日であったという。なぜすぐに報告をしなかったのか。</p> <p>(7) メールが報告が遅れたことに対して、市長はどう思ったか。</p>
--------------------------	--